

2014.2.20  
vol.30

# シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画  
を  
読む

## 本日の上映作品

### そして誰もいなくなった

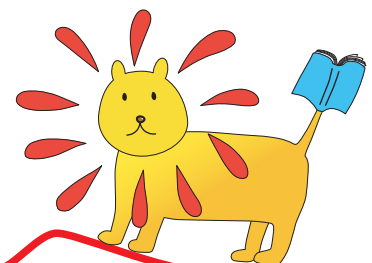


「マザーグース」の唄にのって次々に消えてゆく10人の男女。推理小説の神様アガサ・クリスティーの原作を映画化した傑作ミステリー。

監督：ルネ・クレール  
撮影：ルシアン・アンドリオ  
音楽：チャールズ・プレヴィン  
脚本：ルネ・クレール  
ダドリー・ニコルズ  
出演：バリー・フィッツジェラルド  
ウォルター・ヒューストン  
ジューン・デュプレ  
製作：1945年アメリカ モノクロ  
上映時間：97分

オーエン氏に招かれ、「インディアン島」を訪れた十人の男女。そこには肝心のオーエン氏の姿はなく、代わりに10体のインディアン人形が彼らを待ち構えていた。その夜、オーエン氏の指示書に従い、執事のトーマスが1枚のレコードをかけると、十人の罪状を告げる声が……。意図的に残された数え唄「テン・リトル・インディアン」の楽譜。その歌詞に導かれるように次々と殺人が起こり、人形も一体一体壊されてゆく。閉ざされた孤島から脱出する船は、三日後にならないと到着しない。果たして謎の犯人とは？ オーエン氏の正体は？

会場が明るくなるまで、  
席を立たないようにお願いします。



りぶらいおん©LSC

# 映画を読む

## 『そして誰もいなくなった』

もう一つの「そして誰もいなくなった」 K.M.

アガサ・クリスティ（1890年9月15日～1976年1月12日）は、イングランド南西部のデヴォン州生まれの英国を代表する推理小説作家です。彼女のファン団体のアガサ・クリスティ協会によると、彼女の作品の出版数は全世界で10億部以上ということらしく、ギネスブックも「史上最高のベストセラー作家」に認定しているようです。

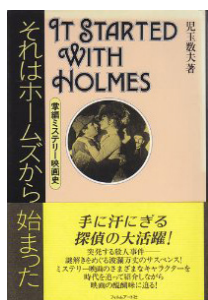
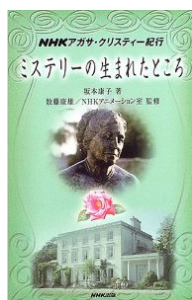
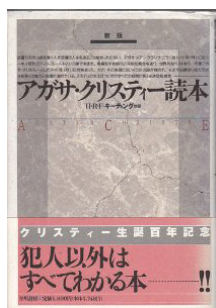
日本でも早くから紹介され、早川書房はクリスティ文庫として、ほぼ全ての作品を翻訳しています。私も高校時代、ハヤカワ・ポケット・ミステリー・シリーズの「そして誰もいなくなった（清水俊二訳、1957）」を読みましたが、巻尾に江戸川乱歩が「＜解説＞クリスティ略伝」を載せていました。

今回の上映作品『そして誰もいなくなった（1945）』の原作は、1939年に英国で刊行された長編推理小説です。この小説は当初、作品中に登場する童謡の重要な役割を暗示するため、この童謡の曲名と同じ"Ten Little Niggers"（10人の小さな黒んぼ）という題名で刊行されましたが、後に米国版の刊行の際、Niggerはアフリカ系アメリカ人に対する差別用語であるということで、"And Then There Were None"（そして誰もいなくなった）と改題され、童謡の方もNiggerからIndianに変更され、以後この題名が踏襲されています。この小説は全世界で1億部以上を売り上げる大ヒットとなり、クリスティの代表作の一つとなりました。1995年にアメリカ探偵作家クラブが選出した「史上最高のミステリー小説100冊」で、本格推理小説ジャンルの1位を獲得するなど、今でもその評価は維持されています。

そして1945年、第二次世界大戦の戦火を避けて渡米していたルネ・クレール監督により映画化されますが、戦後の映画輸入事情により日本では長らく公開されず、30年後の1976年に、水野晴郎氏のインターナショナル・プロモーションの配給によってようやく公開されました。このためクラシック映画大ファンをもって自任する私も、この映画を見るのは、今回りぶらでの上映に先立つDVDによる下見が初めてでした。

第一印象は、高校時代に読んだ原作の推理小説の印象と随分違うなーということでした。クリスティの小説が不気味なサスペンスあふれる殺人劇という印象であったのに対して、ルネ・クレールの映画は、小説の持っている不気味さを感じさせない、ルネ・クレールお得意の実に軽妙なタッチのむしろコメディ風な殺人劇と言う印象でした。さすがクレールらしいと感心はしましたが、それにしてもこの映画に『そして誰もいなくなった』の題名は納得できないなーと、インターネットでのファン・レビューのやり取りを調べたところ納得ができました。

実はクリスティは、もともと結末の異なる小説版と戯曲版の2通りの"Ten Little Niggers"（10人の小さな黒んぼ）を書いていました。そして後に、この両バージョンが共に"And Then There Were None"（そして誰もいなくなった）と改題され、クレールは戯曲版に忠実に、得意の軽妙なタッチでハリウッド向きコメディ風『そして誰もいなくなった』をものにしたということらしいというのが私の想像です。なお、戯曲版「そして誰もいなくなった」は（福田逸訳）で、1984年に新水社から刊行されています。





『愛しのアガサ・クリスティー ミステリーの女王への道』	ヒラリー・マカスキル／著	清流出版	930
『アガサ・クリスティーの秘密ノート 上・下』	アガサ・クリスティー／[原]著	ハヤカワ文庫	930
『そして誰もいなくなった』	アガサ・クリスティー／著	早川書房	933
『ミステリーの生まれたところ NHK アガサ・クリスティー紀行』	坂本 康子／著	日本放送出版協会	930.278
『アガサ・クリスティー百科事典』	数藤 康雄／編	早川書房	930.278
『アガサ・クリスティー』	ディック・ライリー／編	原書房	930.278
『アガサ・クリスティー読本』	H・R・F・キーティング／[ほか]著	早川書房	930.278
『アガサ・クリスティー生誕 100年記念ブック』	アガサ・クリスティー／[ほか]著	早川書房	930.278
『アガサ・クリスティーの誘惑』	芳野 昌之／著	早川書房	930.278
『アガサ・クリスティーの生涯 上・下』	ジャネット・モーガン／著	早川書房	930.278
『プロが選んだはじめてのミステリー映画 北川れい子ベストセレクション 50』	北川 れい子／監修	近代映画社	778.2
『それはホームズから始まった』	児玉 数夫／著	フィルムアート社	778.04
『明るい鏡 - ルネ・クレールの逆説』	武田 潔／著	早稲田大学出版部	778.235
『リラの門』	ルネ・クレール／製作・監督	IMAGICA TV	778.235
『自由を我等に』	ルネ・クレール／監督・脚本	IMAGICA TV	778.235



## 第 29 回上映会『道』の感動など

・何度見ても心にしみる作品です。互いに心を通わせているのに、伝える術を知らず、相手が亡くなって気がつくヒーローの悲壮感漂う切ない心情に、やるせない思いが残りしました。

・38年前にこの映画のことを知り、ずっと見たいと思っていました。

・久し振りの名曲のよさ、白黒のよさ、内容のよさ。やっぱりここでしか見られない映画です。

・60年くらい前に観た時のことを思い出しました。

・テーマ曲に深い思い出が。NHKテレビの放映が始まった頃、BGM的に流れていた曲でした。懐かしさがこみ上げてきました、

・二回泣けました。女の子を置き去りにする時、生活ができるようにトランペットとお金をもたせたところ。後は最後のシーン。

・大画面で見られて更に感激しました。これからもいい作品を楽しみにしています。

・後悔先に立たず！！

・昔を思い浮かべました。良かったです。

・哀しいけれど、人間を信じたい気持ちになった。

・りぶらで2回目ですが、何度見ても感激しました。有難うございました。

・良い映画はやっぱり良し！

・音量が大きすぎる（⇒2回目から少し下げました。）

シネマ・ド・りぶら上映会参加者数（観客＋スタッフ）の推移

No.	上映作品	上映日	参加人数
第1回	第三の男	2009/10/8	151
第2回	アパッチ砦	2009/12/10	81
第3回	禁じられた遊び	2010/3/11	110
第4回	嵐が丘	2010/4/10	270
第5回	道	2010/6/10	278
第6回	少林サッカー	2010/8/19	71
第7回	地下室のメロディー	2010/10/7	141
第8回	私の頭の中の消しゴム	2010/12/2	100
第9回	素晴らしき哉、人生	2011/2/3	205
第10回	第三の男	2011/4/14	223
第11回	おくりびと	2011/5/12	176
第12回	巴里祭	2011/7/14	181
第13回	キリマンジャロの雪	2011/8/25	228
第14回	死刑台のエレベーター	2011/10/13	260
りぶらまつり	ローマの休日	2011/11/13	120
第15回	誓いの休暇	2011/12/8	150
第16回	麦の穂をゆらす風	2012/2/16	205
第17回	バルカン超特急	2012/4/19	261
第18回	雨に唄えば	2012/6/21	280
第19回	黄色いリボン	2012/8/23	300
第20回	ヘッドライト	2012/10/18	306
第21回	グレン・ミラー物語	2012/12/20	384
第22回	4分間のピアニスト	2013/2/21	396
第23回	夜の騎士道	2013/4/18	329
第24回	西部の男	2013/6/20	266
第25回	禁じられた遊び	2013/7/18	352
第26回	父と暮らせば	2013/8/22	419
第27回	ローマの休日	2013/10/17	438
第28回	それでも生きる子供たちへ	2013/12/19	206
第29回	道	2014/1/16	333

# シネマ・ド・リぶら 次回上映会のご案内

vol.  
31

## バグダッド・カフェ



4月17日(木)

① 10:30 ~ 12:05

② 14:00 ~ 15:35

ラスベガスとロサンゼルスを結ぶ道筋にあるモハヴェ砂漠のはずれ。そこにある、取り残された様な寂しげなモーテル“バグダッド・カフェ”きりもりしているのは黒人女のブレンダだ。

監督：パーシー・アドロン

主題歌：ジェヴェッタ・スティール

『コーリング・ユー』

出演：マリアンネ・ゼーゲブレヒト

ジャック・パランス

CCH・パウンダー

製作：1987年 西ドイツ カラー

上映時間：91分

### サロン・ド・シネマ

◆ 場所：ホールホワイエ

寄付金でお茶菓子を提供しています。  
映画の上映前後にご利用ください。

### 『バグダッド・カフェ』テーマ展示

◆ 4月10日(木) ~ 4月22日(火)

◆ 場所：ポピュラーライブラリー

### 上映予定(毎回木曜日)

6月19日 『舞踏会の手帳』

※8月は図書館まつりで、特別上映会(有料)を開催する予定。

9月18日 『嵐が丘』

10月16日 『英国王のスピーチ』

12月18日 『武器よさらば』

1月15日 『死刑台のエレベーター』

2月19日 『フラガール』

※開催日および上映作品は、変更になる場合があります。

「シネマ・ド・リぶら」の賛助サポーター  
受付中！ 年間：1口 2,000円から

託児：500円(各回6名まで)  
申込みは、1週間前までに  
市民活動センターへ。

図書館のDVD資料だけでは、無料で上映できる作品が限られています。あなたの賛助で、  
上映作品の幅が広がります。登録は市民活動センターへ。相談窓口：戸松 090-6574-3312